

中学校・高等学校の国語の教科書に 掲載された漢文の教材一覧

宮 崎 洋 一

昔の日本人は、訓読と呼ばれる中国の書籍を日本語の語順で読んでゆく方法によって、中国の文化の摂取に勉めてきた。その結果、その内容や章句は漢文として、日本の古典に大きな影響を与えただけでなく、古典の一部として日本の文化の中に根付いている。しかし、その一方で、漢文は、中国の古典全体と比べてみると、その内容に大きな特徴を持っている。

本稿は、漢文のそうした特徴を、中学校・高等学校の国語の教科書に掲載された題材を整理し、確かめようとするものである。

今回採用した教科書は以下の通りである。中学校の「国語」は平成 17 年 3 月検定済の「国語」1～3 の教科書（5 社、各社 1 種）、高等学校の「国語総合」は平成 18 年 3 月検定済の教科書（10 社、計 23 種）、高等学校の「古典」は平成 15 年 3 月検定済・平成 19 年 2 月検定済・平成 20 年 2 月検定済の教科書（11 社、計 13 種）である。中学校の「国語」と高等学校の「国語総合」の教科書はすべての教科書を検討し、高等学校の「古典」の教科書は各出版社で一つの教科書を原則とし、採られた教材が全く重ならない 2 社に限って、二つの教科書を検討した。

<中学校>

学図 『中学校 国語』1～3、学校図書、平成 17 年 3 月検定済（707・807・907）

教出 『伝え合う言葉』1～3、教育出版、平成 17 年 3 月検定済（709・809・

909)

三省堂 『現代の国語』 1～3、三省堂、平成 17 年 3 月検定済 (708・808・908)

東書 『新しい国語』 1～3、東京書籍、平成 17 年 3 月検定済 (706・806・906)

光村 『国語』 1～3、光村図書、平成 17 年 3 月検定済 (710・810・910)

<高等学校「国語総合」>

教出 a 『国語総合』(改訂版) 教育出版、平成 18 年 3 月検定済 (国総 032)

教出 b 『新国語総合』(改訂版) 教育出版、平成 18 年 3 月検定済 (国総 033)

桐原 a 『探求国語総合(古典編)』(改訂版) 桐原書店、平成 18 年 3 月検定済 (国総 048)

桐原 b 『展開国語総合』(改訂版) 桐原書店、平成 18 年 3 月検定済 (国総 049)

桐原 c 『発見国語総合』 桐原書店、平成 18 年 3 月検定済 (国総 050)

三省堂 a 『高等学校国語総合』 三省堂、平成 18 年 3 月検定済 (国総 029)

三省堂 b 『新編国語総合改訂版』 三省堂、平成 18 年 3 月検定済 (国総 030)

三省堂 c 『明解国語総合』 三省堂、平成 18 年 3 月検定済 (国総 031)

数研 『国語総合』 数研出版、平成 18 年 3 月検定済 (国総 036)

第一 a 『新訂国語総合』「古典編」、第一学習社、平成 18 年 3 月検定済 (国総 043)

第一 b 『改訂版国語総合』 第一学習社、平成 18 年 3 月検定済 (第一、国総 044)

第一 c 『改訂版高等学校標準国語総合』 第一学習社、平成 18 年 3 月検定済 (国総 045)

第一総 d 『改訂版 新編国語総合』 第一学習社、平成 18 年 3 月検定済 (国総 046)

大修館 a 『国語総合』(改訂版) 大修館書店、平成 18 年 3 月検定済 (国総 034)

大修館 b 『新編 国語総合』(改訂版) 大修館書店、平成 18 年 3 月検定済 (国

総 035)

筑摩 a 『精選国語総合(古典編)』(改訂版) 筑摩書房、平成 18 年 3 月検定済(国総 040)

筑摩 b 『国語総合』(改訂版) 筑摩書房、平成 18 年 3 月検定済(国総 041)

東書 a 『国語総合』(古典編) 東京書籍、平成 18 年 3 月検定済(国総 028)

東書 b 『精選国語総合』 東京書籍、平成 18 年 3 月検定済(国総 026)

東書 c 『新編国語総合』 東京書籍、平成 18 年 3 月検定済(国総 025)

明治 a 『新精選国語総合』 明治書院、平成 18 年 3 月検定済(国総 037)

明治 b 『高校生の国語総合』 明治書院、平成 18 年 3 月検定済(国総 038)

右文 『国語総合』 右文書院、平成 18 年 3 月検定済(国総 014)

<高等学校「古典」>

教出古 a 『古典漢文編』 教育出版、平成 15 年 3 月検定済(古典 008)

教出古 b 『精選古典漢文』 教育出版、平成 15 年 3 月検定済(古典 010)

桐原古 『高等学校古典(漢文編)改訂版』 桐原書店、平成 19 年 2 月検定済(古典 048)

三省堂古 『高等学校古典漢文編(改訂版)』 三省堂、平成 19 年 2 月検定済(古典 031)

数研古 『古典漢文編』 数研出版、平成 19 年 2 月検定済(古典 036)

第一古 『改訂版高等学校古典漢文編』 第一学習社、平成 19 年 2 月検定済(古典 043)

大修館古 1 『古典 1 改訂版』 大修館書店、平成 19 年 2 月検定済(古典 033)

大修館古 2 『古典 2 改訂版』 大修館書店、平成 20 年 2 月検定済(古典 049)

筑摩古 『精選古典漢文編』 筑摩書房、平成 19 年 2 月検定済(古典 040)

東書古 『古典漢文編』 東京書籍、平成 19 年 2 月検定済(古典 029)

明治古 『新精選古典』 明治書院、平成 19 年 2 月検定済(古典 015)

右文古 『古典』 右文書院、平成 15 年 3 月検定済(古典 017)

記載の方法は下記の通りである。

No.……大きく中国と日本に分けた上での教材の通し番号。

時代……中国と日本の時代や王朝。さらに、大きく、「古代」（上古～後漢、紀元後 220 年まで）・「中世」（三国～唐五代、959 年まで）・「近世」（宋～清、1911 年まで）・「近現代」（1912 年以降）、日本、に分けて太線で区切った。

文体……特に詩の場合にその型式を記した。古体詩の場合は「古詩」、さらに 1 句の字数が一定の場合は「五古」（五言古詩）など、近体詩の場合は「五絶」（五言絶句）「七律」（七言律詩）など。

出典／作者……その教材の出典や作者。

生卒……教材の中心人物や詩文の作者の生卒。本稿では、教材は、出典の書籍の成立年代ではなく、教材の中心人物や詩文の作者の時代順に並べた。例えば、一番上の「鼓腹撃壤」は、太古の聖天子の堯が中心人物であるが、出典は元の曾先之の『十八史略』であるように、歴史書などでは、出典となった書籍が成立した時代と書かれている事件や人物の時代が離れている場合があるからである。

中学校「国語」／高等学校「国語総合」……中学校「国語」と高等学校「国語総合」における教材の掲載箇所。上記の一覧で冒頭に掲げた出版社の略称で大別した上で、中学校の「国語」は教材が載せられた学年と掲載ページをゴシックで記し、高等学校の「国語総合」は、同じ出版社の教科書は abc…で区別して掲載ページを明朝体で記し、複数の教科書にある場合はその一つのみの掲載ページを記して+印を付した。

高等学校「古典」……高等学校「古典」における教材の掲載箇所。中学校「国語」／高等学校「国語総合」と同様に、出版社の略称で大別した上で掲載ページを記した。、二つの教科書を採用した 2 社の教科書については、a・b または 1・2 で区別した。散文などでは、文章全体を掲載している教科書に*印をつけた。

この整理によって得られた中学校と高等学校の教科書にとられた教材は、中国の古代のもの 221 種、中世のもの 137 種、近世のもの 21 種、近現代のもの 1 種で中国のもの合計は 380 種、日本のものは 38 種、全体の合計 418 種である。このうちの近現代の教材 1 種と日本の教材 38 種を除いた中国の古

代から近世までの 379 種の内容を考えるならば、中学校・高等学校の漢文の教材には、『論語』『孟子』『老子』『莊子』などに代表される思想、『史記』『戦国策』『十八史略』などに代表される歴史、李白や杜甫などに代表される文学など、さまざまな古典を含んでいる。漢文が中国の「文学」とは異なる所以である。そして、哲・史・文という近代以降の学問の分化が、漢文の教育に大きな影響を与えていると考えられる。

さらに、高校で読んでいる漢文の教材が、中国の古代と中世のものに偏っていることがわかる。極端に言えば、古代の散文と中世の近体詩が中心となっている、と言えるだろう。教材となるべき中国の詩文は、宋代以降も書かれ、現在残っている量からすれば、古代と中世のものよりはるかに多い分量が残っているが、漢文の内容、ひいては日本人になじみの深い漢文の内容は、古い時代に大きく偏っているということが、この整理からも明らかである。そして、とられた教材が中国の古代と中世に偏っていることは、漢文を訓読で理解してきた日本人の限界でもあろう。よく知られた『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』などが漢文の教材になっていないのは、訓読という方法は、中国の文言文の理解のためには有効だが、特に近代以降の、口語や俗語が多く混じった文章の理解のためには、有効な方法とはなり得なかったからである。

さらに子細に見るならば、高等学校の「国語総合」と「古典」の間にも、いくつかの特徴が見出せる。例えば、『論語』はどちらにも多く教材になっているが、『老子』『莊子』『墨子』『荀子』などはほとんど「古典」での教材になっていて、儒教に関連する教材にまず重点が置かれていること、詩は近体詩が中心となっていて、古詩は「古典」になって多くとられており、近体詩の型式を含めた理解がまず重視されていること、日本の漢文もそのほとんどが高等学校「古典」でとられていてること、など興味深い。

平成 24 年度以降の中学校・高等学校の教科書との違いなども含めて、今後も検討を続けてゆきたい。

(本学教授)